

# 国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校  
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日時 令和元年10月〇日(〇)
- 2 場所 第2学年〇組教室
- 3 学年・組 第2学年〇組
- 4 単元名 「根拠を明確にして意見を書こう 意見文を書く」
- 5 単元の目標
  - (1) B 書くこと ウ
    - ・ 事実や事柄, 意見や心情が相手に効果的に伝わるように, 説明や具体例を加えたり, 描写を工夫したりして書くこと。
  - (2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ)
    - ・ 相手や目的に応じて, 話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。

## 言語活動例(2)イ

多様な考えができる事柄について, 立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

## 6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
課題に対する自分の立場や意見が効果的に伝わるように根拠を明確にしたり相手の反論を予想したりして文章を書こうとしている。	自分の立場や意見が効果的に伝わるように, 根拠を説明したり相手の反論を予想して自分の考えをまとめたりして文章を書いている。	読み手に自分の考えやその根拠などが効果的に伝わるように文章の展開を工夫している。

## 7 単元について

### (1) 生徒の状況

- ・ 本学級の生徒は第一学年「根拠を明確にして書こう」において, 主張と事実のつながり, 事実と理由のつながりを吟味する活動を行った。その学習を生かして自分の意見や考えを相手に納得してもらおうと, 主張・事実・理由の整合性に注意して文章を書く生徒が多い。一方, 一般的な考えや他者の考えを想定したり, それらを自身の文章に反論として取り入れたりする生徒は少なく, 反論の示し方等, 意見の説得力を高める工夫については, その理解, 文章への活用ともに課題が見られる。

### (2) 教材の価値

- ・ 本教材は身近な課題についての意見や考えを自分の立場と根拠を明確にし, 文章の構成を工夫して書くことをねらいとしており, 根拠の示し方や反論の想定等, 意見をより明確にしたり, 深めたりするための工夫について考える場面が学習過程に位置付けられている。特に同じ立場で意見を述べながらも根拠の示し方, 工夫の仕方の異なる二つの例文が示されていることにより, 生徒は例文を比較することで「反論とそれに対する考えを示す」ことについて, その効果を実感しながら意見文の説得力を高める工夫について考えることができる。また, 意見文を改善するために助言し合う活動が示されており, その観点として「根拠が納得のいくものか」「反論を検討して, 意見を深めているか」が挙げられている。それらの観点を具体化して示すことで, 生徒は既習事項(根拠の論理を吟味し, 妥当性を検討する)を振り返りつつ, 自身の書いた反論とそれに対する考えについても論理性を意識して吟味することができると思う。

### (3) 指導の工夫

#### ① 思考の可視化(ワークシートの工夫)

- ・ 意見・事実・根拠・反論の関係を図示したワークシートを作成する。それぞれの内容を付箋紙に記入させ, それをワークシート上に配置することで, 論の筋道を可視化するとともにグループワークでの助言や自身の検討結果を即座に反映できるようにする。

#### ② 意見文の課題の設定

- ・ 生徒の意見を支える根拠となる事実や理由を想起しやすくするために, 生徒の生活体験に即した課題を設定する。また, 課題は複数準備し生徒が書きたいと思うものを選択できるようにする。

③ 単元に位置付ける言語活動の設定

- 自分の意見への反論とそれに対する考えを意見文の構成に取り入れる等の工夫を生徒に定着させるためには、形式として指導するだけでなく、読み手がどのように読むのかを具体的に思い描くことの大切さを生徒に実感させることが不可欠であると考え。そこで本単元では新聞という読み手を強く意識するメディアと指導内容を関わらせた「意見文を新聞に投書する」という言語活動を設定する。それによって読み手を納得させるという目的を意識させたい。

8 指導と評価の計画（全5時間）

	主たる学習活動	国語への関心 意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技 能	評価規準・評価方法
1	課題を決め自分の立場を明らかにし意見文①を書く。	◎			自分の立場と根拠を明確にして文章を書こうとしている（授業観察、意見文①）
2	「練習 意見文の説得力を考える」を基に根拠の述べ方と反論の効果について確認し、ワークシートに意見の根拠となる事実と考察を書く。	○	◎		意見を支える根拠を事実と事実から考察したことに分類しワークシートに記述している（ワークシート）
3 (本時)	意見文①に対する筋道の通った反論を考える。		◎	○	意見文①に対する筋道の通った反論とそれに対する考えをワークシートに記述している（ワークシート、授業観察）
4	ワークシートで検討した立場・根拠・反論の関係を基に意見文②（新聞への投書）を書く。	○	◎	○	自分の立場や意見が効果的に伝わるように、根拠を説明したり相手の反論を予想して自分の考えをまとめたりして文章を書いている。（意見文②）
5	意見文を読み合い、助言し合う。			◎	意見を支える説得力のある根拠になっているか、筋道の通った反論になっているかという観点で助言しようとしている（授業観察）

9 本時の目標 (3 / 5)

「意見文①の意見・根拠に正対する反論とそれに対する考えを書くことができる」

10 本時の学習展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入	1 本時の目標を確認する。  意見文①に対する筋道の通った反論とそれに対する考えを書こう。	・ 前時の学習を思い出させる。	
展開	2 前時に記入した意見・事実・考察について、つながりが適切かどうかを確認する。  3 意見文①の根拠に正対する読み手の反論とそれに対する考えを付箋に記入する。  4 グループでのアドバイスを受け、再度、意見・根拠と反論のつながりを吟味する。	・ 第一学年「鑑賞文を書く」で学んだ主張と根拠のつながりを想起するよう促す。  ・ 反論の述べ方のモデルを黒板に掲示し、随時参照できるようにする。 ・ 筋道が通った反論とは何かを前時に使用したプリントから思い出させる。 <b>筋道の通った反論とは</b> ・ 立場、根拠の考察と正対する。 ・ 反論に対する考えは反論と対立する。 ・ 反論を支える根拠がある。  ・ 参考になったアドバイスは、ワークシートの考察や反論に色ペンで書き加えさせる。 ・ 筋道の通らない反論や反論に対する考えは取り除かせる。	A 反論や反論に対する考えが、意見・根拠に正対し自分の意見を支えるものになっている。  B 意見・根拠に正対した反論を書いている。  (ワークシート)
まとめ	5 本時の学習を振り返る。	反論とそれに対する考えを書く際に気付いたことを発表させる。	

意見文の説得力を考える

A 私は、商品の過剰な容器包装はやめるべきだと考える。

昨日、私が出したごみを見てみると、メモ用紙やレシートの他、書店でくれた紙のブックカバーと紙袋、コンビニエンスストアで買ったお菓子の空き箱とレジ袋などがあった。他の人も、容器包装のごみが多いのではないかと思う。テレビでも過剰包装の問題を放送していた。

私は、地球の環境を考えて、容器包装のごみをできるだけ少なくするように努力するべきだと思う。

(光村図書 国語2学年教科書より)

意見文の説得力を考える

B 私は、商品の過剰な容器包装はやめるべきだと考える。

容器包装には、紙バック、トレイ、包装紙、レジ袋などがある。環境省の統計で、家庭ごみの中のこれらの割合は、重量では約二十五パーセント。容積では五十パーセント以上になるという。つまり、容器包装を減らすと、かなりのごみを減らせると考えられる。

### 反論

私は、世の中全体で過剰包装を減らす努力をすべきだと考える。

(光村図書 国語2学年教科書より)

「意見文の説得力を考える」の反論に当てはまる文は、次のア～オのどれですか。選んだ理由も考えてみましょう。

ア 売り手が、商品をきれいな状態で届けたいという気持ちはわかる。しかし、これは、消費者がそう望んでいると考えてのことだろう。だから、消費者が過剰な包装を断れば、解決できるはずだ。

イ 容器包装をしなくても物を買うことはできる。実際に日本でも、日本以外でもビニール包装をせずに販売している。

ウ 容器包装をしなくても良いという人もいるだろう。しかし、クリスマスプレゼントや誕生日プレゼントはきれいな包装をしている方が嬉しい。だから包装がはずれごみになるということまで考える必要はない。

エ 過剰な包装をやめれば、ごみを減らせるというわけでもない。今の状態を維持することもあながち間違いではないと思う。

オ 現在、海にプラスチック汚染が広がっていることが問題となっている。これ以上海洋生物に被害を与えないためにも、ごみを減らす運動をしていく必要がある。

## 意見文の例

日本では、使用済みのパソコンは、パソコンメーカーなどが回収し、リサイクルすることが法律で義務づけられている。そのため、国内でのリサイクル率はたいへん高い。しかし、世界にはそうでない国もある。私は、リサイクルの問題は、日本だけでなく、地球全体の視点でみるべきだと考える。

アフリカのガーナのある地域では、外国から輸出されてきた使用済みパソコンが、廃棄物として山積みになっている。これらは外国から中古パソコンとして輸出されてきたものの、実際には使い物にならず廃棄されたものや、部品をリサイクルするにも、専門的な知識や技術が不足していて放置されたものである。

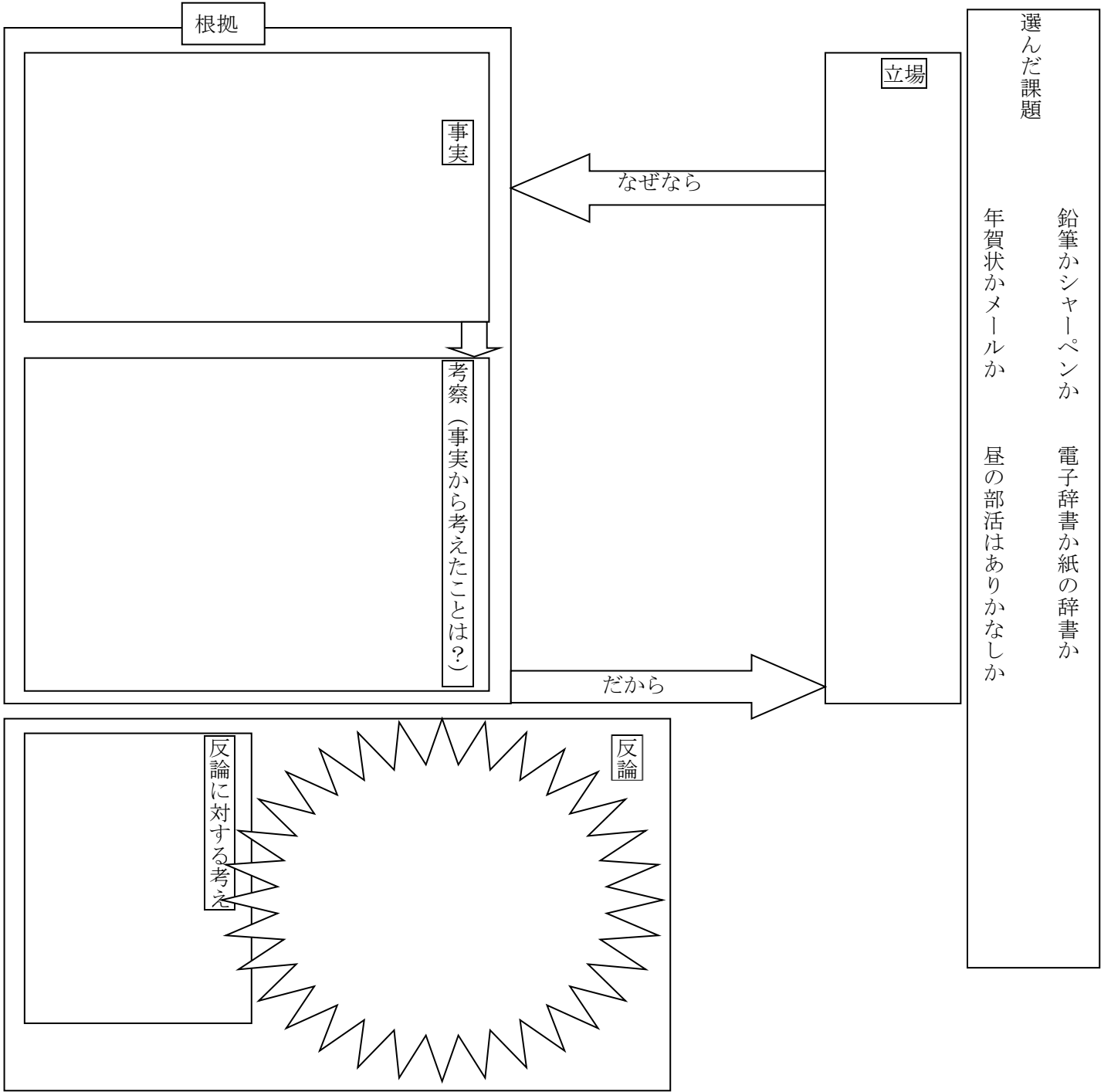
パソコンなどの電子製品には、部品に有毒な物質を含むものもあり、現地で深刻な環境汚染や健康被害を引き起こしているそうだ。このことは、環境問題としても、また、人道的な面からもうてい許されることではないだろう。

日本国内で、資源の循環ができていけば問題ないと考える人もいるかもしれない。しかし、そのような考え方を続けていけば、このような被害はますます拡大するだろう。そして、いずれ地球規模の環境破壊として、私たちの身にも降りかかってくるだろう。

人やお金や物が国境を越えて活発に動く現代は、私たち一人一人の行動や考え方が、世界のどこかで何らかの影響を与えずにはおかない。このことを肝に銘じ、リサイクルやごみ問題について地球全体の視点で考えていく必要があると思う。

(光村図書 国語2学年教科書より)

- ① 事実、調べたことを表す文末表現に赤線を引こう。
- ② 考えを表す文末表現に黒線を引こう。
- ③ 意見に対する反論部分を「」で囲もう。
- ④ この意見文で一番言いたい部分はどこ？書き出してみよう。



アドバイス

...

反論について	考察について	事実について	評価の観点	評価○△×
反論に対する考えを 書いている。	事実と考察（考えたこ と）のつながりがある。	正確な事実を 書いている。	立場を支える事実を 書いている。	
事実と考察に対する筋 道の通った反論とそれ に対する考えを書いて いる。	事実の考察（考えたこ と）を書いている。			